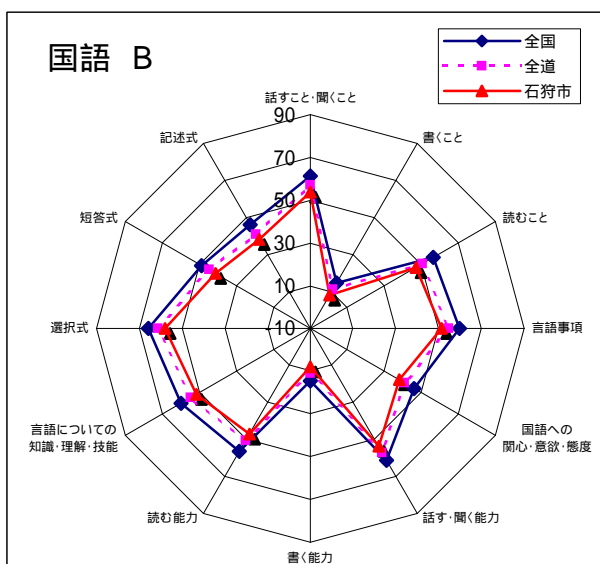
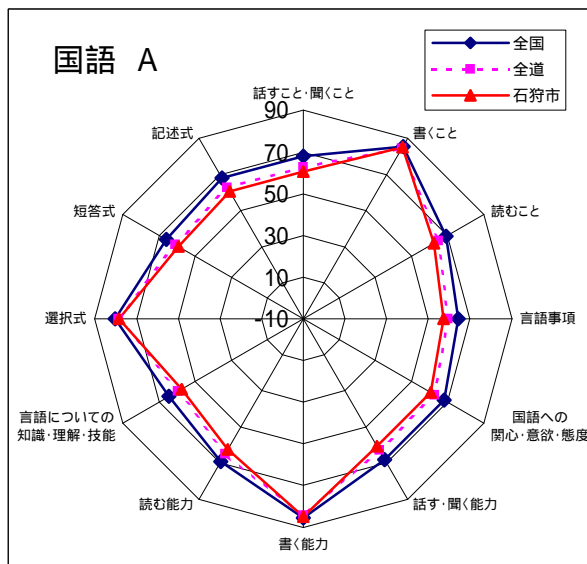


平成21年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【小学校国語】

	国語 A（主として「知識」に関する問題）		国語 B（主として「活用」に関する問題）	
	平均正答数	平均正答率/（全国比）	平均正答数	平均正答率/（全国比）
全道	11.9	66.0/ 3.9	4.6	45.9/ 4.6
全国	12.6/18	69.9	5.1/10	50.5

全国の欄の平均正答数中 / 18等は出題された問題数である



国語 A（主として「知識」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」～話し合いでの司会の役割、「書くこと」～はがきの表書きの順序や報告文における小見出し、「読むこと」～表現の工夫や要約、および「言語事項」～漢字やローマ字の読み書き、接続語の活用や書写（毛筆）における文字の書き方に関する内容になっている。

話し合いが計画的で円滑に行われるために、司会者の役割や働きが重要であることの認識にやや欠ける。また、主人公の心情や表現の工夫（比喻表現）に気づき優れた叙述を味わうこと、「言語事項」では、漢字を正しく書くことやローマ字の促音の読みなどに課題が残る。

国語 B（主として「活用」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、および「言語事項」の3領域1事項から総計10問の出題となっている。本文の読み取り、表や図からの情報収集、目的や意図・条件に合わせた表現など、実生活における知識・技能の活用力を見る内容である。

問題提起の個所をとらえること、自分の考えをまとめたうえで言葉に置き換えて表現すること（読む）、提示されている図や表および記号を正しく読み取り説明すること（話す・聞く、言語）が課題である。また、短答式や記述式による解答が多く求められている。

国語 A（知識）、国語 B（活用）では、差が見られる。

国語 A では、基礎的・基本的な知識や技能を見る一問一答型の問題（短答式、選択式）が多い。国語 B では、提示されている資料やグラフなどを適切に読み取り、要約して解答する問題が多い。特に決められた文字数による記述式の正答率が低く、無解答率の割合が高い。問題文をはじめ文章の読解力、情報を活用した応用力に課題がある。考えを持たせ発表させる場の工夫・読書や新聞の愛読・日記やノートの記録（書く作業）など学習場面の幅を広げ、継続的に取り組ませていく指導が必要である。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

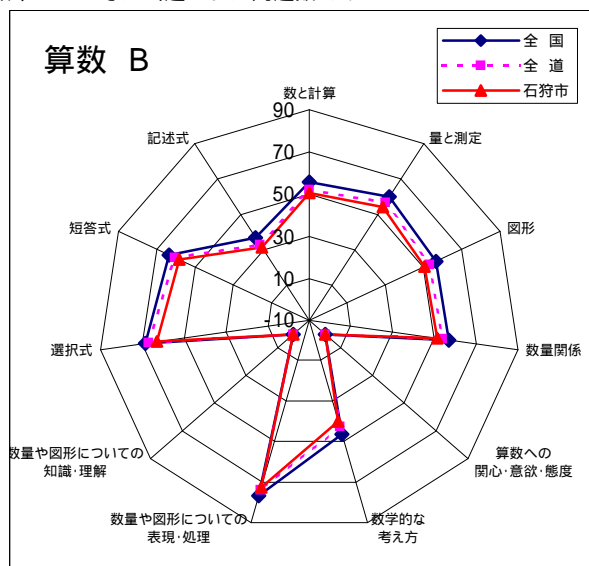
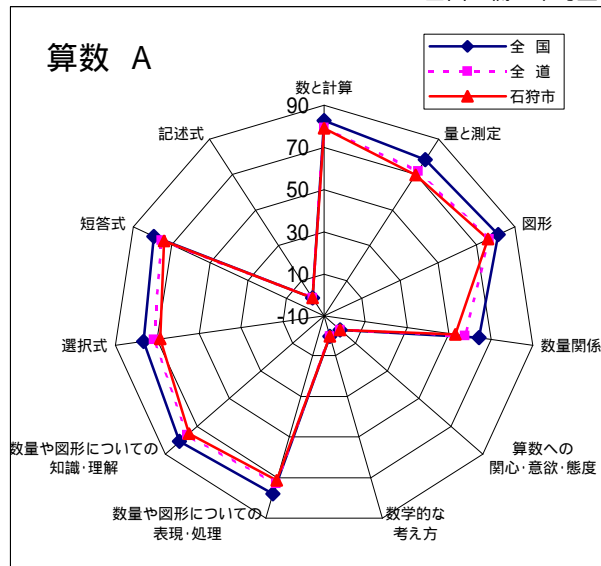
- ・国語の勉強が好きだ（50.1%）、（全国58.3%）
- ・国語の勉強は大切だ（90.2%）、（全国90.3%）
- ・国語の授業の内容はよく分かる（75.2%）、（全国80.0%）
- ・読書は好きだ（67.1%）、（全国71.8%）
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（82.2%）、（全国85.1%）

全国に比べて、国語科に対する意識が低い傾向にある。「大切・役に立つ」と考えているが、「好きだ・よく分かる」では差が見られ、普段の学習状況とのギャップが感じられる。

平成21年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【小学校算数】

	算数 A (主として「知識」に関する問題)		算数 B (主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率/(全国比)	平均正答数	平均正答率/(全国比)
全道	13.3	74.1/ 4.6	7.2	51.5/ -3.3
全国	14.2/18	78.7	7.7/14	54.8

全国の欄の平均正答数中 / 18等は出題された問題数である



算数 A (主として「知識」に関する問題)

「数と計算」～四則計算・概数・数直線、「量と測定」～角の測定・三角形の求積、「図形」～四角形の定義や性質、「数量関係」～混合計算・割合・資料の分類整理に関するものであり、第5学年までに身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能を見る設問である。

算数の基本になる四則計算(混合計算を除く)の理解や技能面は良いが、混合計算や四捨五入による概数の求め方、三角形の求積のきまりについての理解度の低さが見られる。また、資料を2つの観点から分類整理して作表し活用を図ることについても低さが見られた。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

知識・技能などを実生活の場面に活用する力やさまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する力を見る内容になっている。「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域すべてからの出題である。

根拠となる考えや実験の結果を基に示された数値を選択するなど、算数的な意味を読み取り情報を整理し結論を導き出す問題の正答率が低い。また、筋道を立てて考え、与えられた条件に当てはまる答えを導くことについても同様な傾向にある。尚、2つの答えが必要であるにもかかわらず、片方1つだけを解答していた問題もあった。(単なる不注意か? 早とちりか?) 授業中の集中度を高め、注意深く取り組ませる学習指導も大切である。

算数 A (知識)、算数 B (活用) の間に大きな差がみられる。

算数 A では、基礎・基本となる「数と計算」領域の問題が半数を占めた。その多くは選択および計算の答えを書く短答式解答になっている。その他の領域においても、図形の定義の活用や求積、割合など基礎学力を見る設問である。算数 B では、図形の定義の利用や数量関係を論理的に考えたり、提示されている実験やグラフ等の資料を適切に読み取り決まりを見つけて解答する、活用力(応用力)を見る問題が多い。

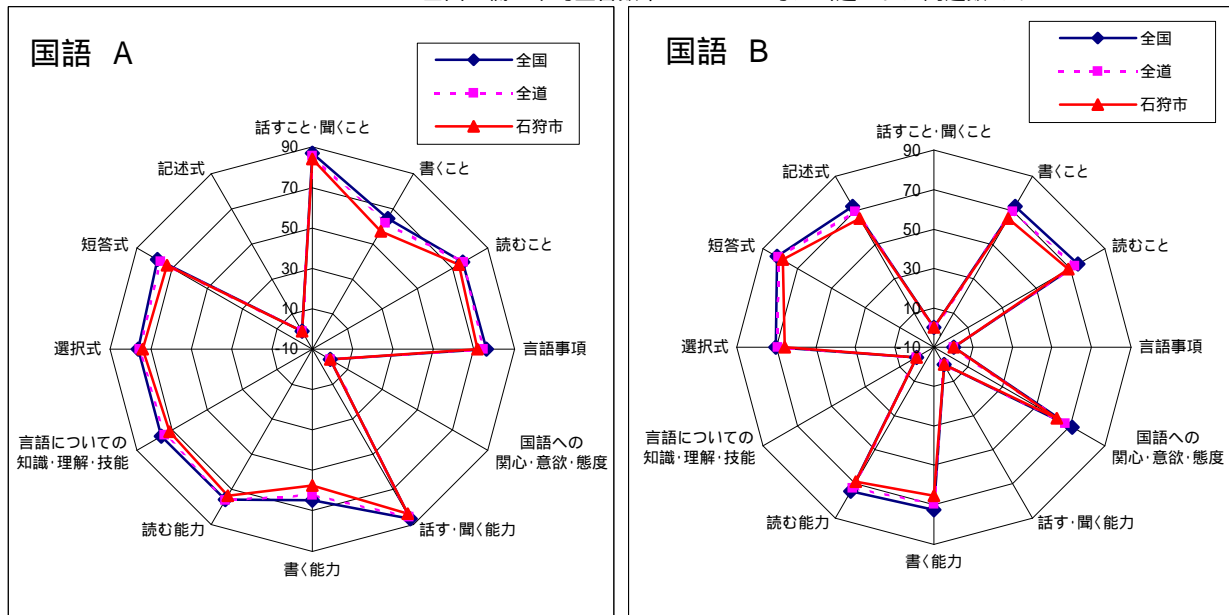
教科に関する意識(質問紙の傾向)

- ・算数の勉強が好きだ (66.1%)、(全国66.2%)
  - ・算数の勉強は大切だ (90.2%)、(全国91.9%)
  - ・算数の授業の内容はよく分かる (77.1%)、(全国79.2%)
  - ・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ (86.1%)、(全国88.2%)
- 算数科に対して肯定的にとらえており、全国と比べて、ほぼ同等の傾向にある。

平成21年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【中学校国語】

	国語 A（主として「知識」に関する問題）		国語 B（主として「活用」に関する問題）	
	平均正答数	平均正答率 / (全国比)	平均正答数	平均正答率 / (全国比)
全道	25.1	76.1 / -0.9	8.0	72.6 / -1.9
全国	25.4 / 33	77.0	8.2 / 11	74.5

全国の欄の平均正答数中 / 33 等は出題された問題数である



国語 A（主として「知識」に関する問題）

問題の構成は、言語事項（漢字の読み・書き、同音異義語、主語・述語の関係、書写など）を中心に、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの問題が出題されている。

話すこと・聞くこと（スピーチやメモ）、書くこと（根拠をもって提案・説明する）、読むこと（物語文、目次の使い方、歴史的仮名遣い）などを取り上げている。特に、言語事項の学習の場面を意図的に他の領域と関連させた活動の工夫が必要である。

国語 B（主として「活用」に関する問題）

傾向としては、読むことと書くことを関連させるなど複数の領域にまたがった出題が多く、日常経験する図書館の案内図からの出題や説明的文章、詩歌などで自分の考えを表現するなど、読書、鑑賞、創作等の言語活動を活用する問題が出題されている。

与えられた条件から必要な情報を選び出し、相手に分かるように根拠を示して説明すること、また関連する資料や補助資料を用いて自分の考えをまとめて表現するなど、情報の読み取り、整理・活用するとともに、「伝える力」に重点をおいた学習活動を工夫する必要がある。

国語 A（知識）、国語 B（活用）では、差が見られる。

一問一答型の国語 A の問題とは異なり、国語 B では、情報の理解（読み取り）、整理、活用とともに関連する資料・情報を活用して、複数の情報から、根拠を明らかにしながら相手に分かるように説明する（表現する）ことが問われている。主語・述語の関係など言語事項を確実に身に付けるとともに、基礎的・基本的な知識や技能についての累積など言語活動を豊かにしていく必要がある。

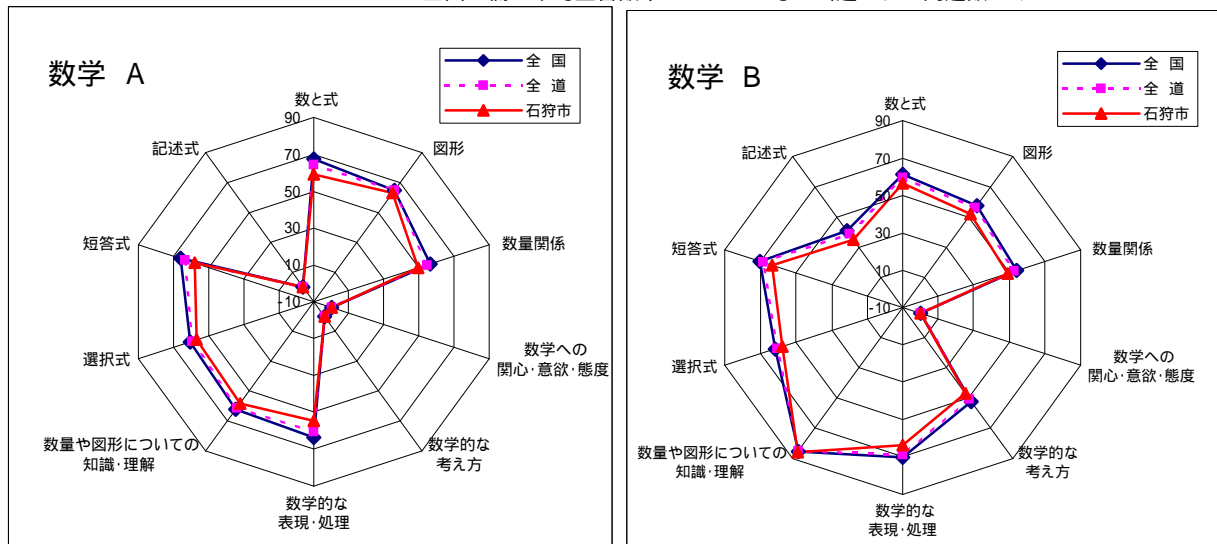
教科に関する意識（質問紙の傾向）

「国語の勉強は好きだ」という肯定の意識は全国（56.7%）に比べ石狩市（66.9%）の方が高く、「国語の勉強は大切だ」という意識（82.6%）は全国（87.6%）とほぼ同様である。「国語の授業の内容はよく分かる」かでは、6割以上が分かる肯定的なものに対し、1/3以上が分からないと否定的な回答である。「読書は好きだ」という肯定的な回答は2/3以上で、全国とほぼ同様の傾向である。

平成21年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【中学校数学】

	数学A（主として「知識」に関する問題）		数学B（主として「活用」に関する問題）	
	平均正答数	平均正答率 / (全国比)	平均正答数	平均正答率 / (全国比)
全道	20.1	61.1 / -1.6	8.3	55.4 / -1.5
全国	20.7/33	62.7	8.5/15	56.9

全国の欄の平均正答数中 / 33 等は出題された問題数である



数学 A（主として「知識」に関する問題）

指数の計算、( )のある四則計算などの数と式、平面図形や空間図形などの図形、比例や反比例、一次関数など数量関係にかかわる各領域の問題がそれぞれ同数ずつ出題されている。

文字式、等式の変形や一元一次方程式の問題での習熟に努める必要がある。特に数量関係での2つの数量が反比例の関係になることへの理解および一次関数、二元一次方程式などについてさらに理解を深める必要がある。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

生活の様々な場面で数学的活動を取り入れ、与えられた情報を分類整理したり筋道を立てて考えたりするなどして、自分の考えを数学的に表現するなどの問題が出題されている。

数と式では、筋道立てて考え、事柄が一般的に成り立つことの推論や説明の仕方について工夫が必要、図形では、数学的な表現を用いて説明することや事象についての数学的な解釈、数量関係では、数学的に解釈し、問題解決の方法と数学的に説明することなど、それぞれ数学的な見方や考え方、数学的な活動の習得に努める必要がある。

数学A（知識）、数学B（活用）の間に大きな差がみられる。

数学Aでは、数値や条件がある程度与えられて計算、説明する問題が多いが、数学Bでは、数学的な活動や知識・技能を総合した（活用した）設問であり、日常生活のあらゆる場面で数学的な活動が生かされていることを理解するとともに、学習活動に多面性をもたせたり多様性を工夫したりするなど展開の仕方を工夫する必要がある。

特に、計算の基礎や数学的な見方・考え方を身につけるとともに、筋道を立てて考えたり説明したりする（言語活動の工夫 - 表現すること）学習などの工夫も重要である。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

「数学の勉強は好きだ」では、全国とほぼ同様な傾向で、肯定と否定が相半ばしている。

「数学の勉強は大切」では、2 / 3 以上が肯定的ではあるが全国（77.5%）よりも低く、3割が否定的な傾向にある。

「数学の授業の内容がよく分かる」では、全国（64.9%）に比べ石狩市では（57.2%）と低く、4割以上が否定的（分からない）な回答である。

「数学ができるようになりたい」では、全国（91.5%）、石狩市では（88.5%）と多くの生徒ができるようになりたいという意識は高い。

学習状況調査(児童生徒質問用紙による)

基本的な生活習慣について

生活時間

就寝・起床について

参考

全国の小学生の平均的就寝時刻	10時前後
全国の中学生の平均的就寝時刻	11時～0時

全国の小学生の平均的起床時刻 6時30分～7時

全国の中学生の平均的起床時刻 6時30分～7時

小学生の就寝時間はやや早めだが中学生の1割強は午前1時以降に就寝している。起床について小学生は全国平均並み、中学生は遅めである。

就寝時刻の設定についてはあまり厳しくないが、起床については登校時刻などの制約もあり、ほとんどの児童生徒が決まった時刻に起床している。

睡眠時間

参考

全国の小学生の平均的睡眠時間 8～9時間

全国の中学生の平均的睡眠時間 7～8時間

小中学生とも睡眠時間は十分に確保されている。

家庭学習

参考

全国の小学生の平均的家庭学習時間 1～1時間30分(土・日もほとんど同じ)

全国の中学生の平均的家庭学習時間 1時間30分～2時間(土・日もほとんど同じ)

普段(月～金曜日)小中学生とも家庭学習時間は短い。まったくしないとの回答も1割程度づついる。土・日曜日の家庭学習でも同じ傾向が見られ、全くしないは小学生で1.5割、中学生で2割を占めている。

平日において1時間以上家庭学習をする小学生の割合は昨年と比して増加傾向にある。

テレビ・インターネット等

テレビ、ビデオ、DVD、インターネット等に関わる時間は全国等と比べてもかなり長時間かかっている。

特に、テレビで4時間を越えている小中学生はおよそ3割弱程度、テレビゲーム、インターネット等でも4時間を越えている小中学生がそれぞれ1割前後を占める。

生活習慣

朝食

朝食を毎日食べている児童生徒の割合は全国等に比べて低く、特に中学生において朝食をあまり食べない割合が1割を超えている。

用具の準備

学習用具の準備はよく、前日か、当日の朝確かめて登校している児童生徒がほとんどである。(全国と同等)